

〔茶道筌蹄^五〕集雜

茶箱 桐無地、大小とも利休形、

菊繪茶箱 大は利休形、小は宗全好、

一閑張茶箱 外溜内黒、大小とも原叟好、小の方に鋸目あるは啐啄齋好、

桐唐戸面茶箱 了々齋好

〔南方録^三〕茶通箱

箱は桐にて蓋はさん打ッなり、緒は不付、白き紙よりにて眞中をく、りて封をする、封の三刀と云事秘事なり、人の方へ茶を贈る時、持參する事もあり、又先達て持せ遣す書もあり、濃茶薄茶兩種も、又濃茶一種も又濃茶計り二種も、それ〴〵の心持次第なり、茶入も濃茶を秘藏のものにも入ル、又唐和にても心次第也、薄茶棗中次の類也、封穴のある茶通もあり、茶通に箱取あつかひ、封の切様等大秘事也、口傳多し、箱の大サは茶入に依て違有り、

〔茶道要録^上〕茶盛之事

一茶桶箱之事、筭蓋、藥籠蓋アリ、又極箱詰箱、碾木箱アリ、悉ク寸法ノ書ニアリ、

〔貞要集^一下〕茶桶箱茶湯の事

一茶桶箱は桐の本地さん蓋也、細川三齋流は桐のやらう蓋也、寸法別書に有之、

〔古今茶之湯諸抄大成^六〕一茶通箱ノ事、此形世上にまれなり、利休より去大家へ進上ノ形これ也、

利休ノ袖日記には古ノ形とあり、利休ノ作とも見えす、又何人ノ作共なし、世上にまれ成形ゆへ

此書にいだす、^{○中略}

箱ノタカサ三寸三分 幅二寸七分 タケ五寸三分 右いづれも内ノリ也

蓋ノ兩はしに、うらはしはみあり、六分、蓋ノサン幅一分 タカサ一分リン 總板ノアツミ一